

イベント情報のお知らせ

今後の予定

【羽曳野からだ塾】

当センターでは、年に4回、府民の皆さまの健康増進を目的に、府民公開講座「羽曳野からだ塾」を開催しております。

毎回ご好評をいただいております当講座は、当センターの医師や職員が、テーマに沿ってわかりやすく丁寧にお話しています。

お申込み方法などの詳細は、開催日が近づきましたら、チラシや当センター公式SNS等でご案内いたしますので、そちらよりご確認の上、どうぞお申込みください。

< 4月以降の予定 >

※令和7年3月時点の情報です。日程や診療科等が変更になる場合がございます。

- 令和7年5月31日(土) 糖尿病・内分泌内科
- 令和7年9月6日(土) 整形外科
- 令和7年12月6日(土) 皮膚科
- 令和8年3月7日(土) 産婦人科

大好評につき、
早期にお申込みを締め切る場合がございます。
お早めのお申込みをおすすめいたします。



開催報告

【アレルギー府民公開講座】

3月9日(日)にアレルギー府民公開講座「アレルギー 正しく知ってより良い生活を」を開催いたしました。当講座では、府民の皆さまにアレルギー疾患について正しく理解していただくために、当センターの専門医が最新の治療法や正しい対処法などについてお話ししています。

現地参加者29名、WEB参加者213名と、大変多くの方にご参加いただき、「わかりやすかったです」「勉強になりました!」と大好評でした。ご参加くださった皆さまに感謝申し上げます。

当センターは、大阪府内のアレルギー疾患医療の拠点として診療ネットワークの中心的な役割を担う「大阪府アレルギー疾患医療拠点病院」であり、当講座は「大阪府アレルギー疾患医療拠点病院事業」の一環として開催しております。今後も「地域に信頼され、地域になくならない病院」としてこのような公開講座や講演会、普及活動に積極的に取り組んで参ります。

- 日時 令和7年3月9日(日) 13:00~16:00
- 会場 現地：大阪はびきの医療センター3階 講堂
WEB：ZOOMウェビナー
- テーマ 『より良い生活を目指して』
講演4題と総合討論



はびきの診療科コラム①

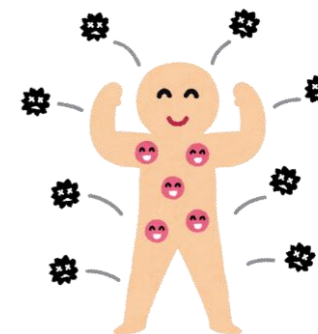
免疫チェックポイント阻害薬の副作用を知っておきましょう

免疫チェックポイント阻害薬(キイトルーダ、オプジーボ、テセントリク、イミフィンジ)は、がん治療に使用される薬剤です。この薬は免疫システムを活性化させて、がん細胞と戦いますが、同時に「免疫関連有害事象」と呼ばれる副作用を引き起こす可能性があります。

主なものとして、湿疹、下痢、肺炎以外にホルモン異常や急に発症する糖尿病、筋力低下などあまり抗がん剤の副作用を連想しないものがあります。また、投与が終わっても発症することがあり、注意が必要です。必ずしも全ての患者さんに現れるわけではありませんが、早期発見と対応が特に重要です。

当センターでも、これらの薬を使っている患者さんが非常に多くなっています。治療中に異変を感じたら、すぐに医師、薬剤師、看護師など医療スタッフに相談しましょう。適切な対応により、多くの場合、副作用をコントロールすることができます。

肺腫瘍内科 主任部長 鈴木 秀和



はびきの診療科コラム②

肥満症に対するアプローチ-GLP-1受容体作動薬について

肥満は万病の元といわれます。肥満は医学的に体内の脂肪の蓄積に伴う体重増加と定義されますが、高血圧、脂質異常症、高尿酸血症など生活習慣病の上流因子として重要です。

これまで様々な薬剤が登場してきましたが、効果が限定的であったり、副作用が強かったりしたため、普及していませんでした。しかしながら、近年安全で効果的な薬剤が発売されました。

GLP-1受容体作動薬という薬剤がそれであり、消化管ホルモンであるインクレチンの作用を増強することにより、副交感神経を介した食欲低下作用に伴う体重減少をきたすといわれています。生活習慣病予防に効果的と考えられ、今後普及していくと考えられます。

当センターでも肥満症に対して、食事・運動など減量を目指したマネジメントを行い、効果が不十分な症例については、GLP-1受容体作動薬の投与を保険診療で行っております。

糖尿病・内分泌内科 主任部長 櫻根 晋



はびきのトピックス①

特定看護師をご存知でしょうか？

特定看護師とは、あらかじめ受けていた包括指示に従い、医師や歯科医師の判断を待たずに、一定の診療補助業務（特定行為）が実施できる看護師のことを指します。この特定看護師は、患者さんの症状に合わせてタイムリーに処置ができるため、病状の悪化を防ぐ一方で、医師の不在を補うことでチーム医療にも貢献できます。特定行為には21区分38行為があり、特定行為研修修了者数は令和6年9月時点で全国で11,441人となっております。

当センターには人工呼吸器関連、術後疼痛管理関連などの分野で現在6名の特定看護師が手術室、ICU、一般病棟で多岐に渡り働いております。

手術室では主に麻酔科医のタスクシフトを目的とした手術中の麻酔管理や術後の疼痛管理を行っています。ICUでは重症患者に対して適切な呼吸管理が出来ているかなどをタイムリーに確認した上で適切な治療を行っています。まだまだ人数の少ない特定看護師ですが、医師の働き方改革を受け今後も活動が期待されています。



手術室で業務を行う特定看護師の様子

はびきのトピックス③

アトピーカレッジ入院プログラムのご案内

当センター皮膚科では、アトピー性皮膚炎の治療に特化した「アトピーカレッジ」入院プログラムを行っています。「アトピーカレッジ」は平成21年に始まり、令和5年3月までに2,000名以上の方が治療を受けています。令和5年度は262名の方が入院されました。

最近では高価な新しい治療薬も登場していますが、外用治療をしっかり行うことで、十分な寛解、寛解維持が得られる場合も多くあります。詳しくは当センターお問合せフォーム（Mail: kokyucen@ra.opho.jp）へお問い合わせください。

★成人プログラム

8日間の入院を基本とし、ステロイド外用薬を使った集中治療と患者さんへの教育を行います。退院後も外来で安定した状態を保つことを目標に治療を行います。

入院は金曜日にスタートし、翌週の金曜日に退院するスケジュールです。医師、薬剤師、臨床心理士、栄養士による講義や看護師による外用指導があります。

★小児プログラム

乳児からすべての年齢のお子さまに対応しています。5歳までのお子さまには、付き添い入院をお願いしています。小中学生は、隣接するはびきの支援学校と連携し、転校という形で入院中も学校の授業を受けられます。

また、学校生活に適応するのが難しいお子さまには、臨床心理士をはじめとした他の専門職によるサポートを行い、安心して入院生活を送れるようにしています。

夏休みなどの長期休みに入院することも可能です。小児病棟はカラフルで、楽しく過ごせるプレイルームもありますので、お子さまが快適に入院生活を送ることができる環境を整えています。

はびきのトピックス②

マンモグラフィ待合室に、パンフレット置き場を設置いたしました！

当センターの乳腺センターのご紹介、がんに関する冊子、広報誌などを揃えています。是非お手に取ってご覧ください！



＼ Kブロック受付の後ろにございます！



↑当センターの乳腺センターの情報が、ぎゅっと詰まったご案内パンフレットです。
※右上のQRコードからもご覧になっていただけます。

はびきのニュース

花粉症のシーズンとなりました

花粉症は、花粉の飛散開始に合わせた早めの治療開始が有効です！

花粉症の情報として、厚生労働省と環境省より、花粉症に関するポスターが発行されています。より詳しく書かれたリーフレットは右のQRコードよりダウンロードできますので、参考にしてみてください。

また、当センター2階外来にも同リーフレットを設置しております。ぜひお手に取ってご覧ください。

花粉症は重症になるとさまざまな影響があります。詳しい情報は、花粉症重症化ゼロ作戦ホームページもご覧ください！

環境省「花粉症対策」リーフレット



↑ダウンロードはこちら



↑花粉症重症化ゼロ作戦HPはこちら



ホームページ

